

脚下照顧

巻・頭・言

特許庁技術懇話会 代表委員 石井 孝明

令和2年度の代表委員を務めさせていただきます石井孝明と申します。至らぬ点、多々あるかと存じますが、1年間よろしくお願い申し上げます。

「令和」と改元され1年ほど経ち、令和と書くことにも随分と慣れてきましたが、皆様はいかがでしょう？

「令和」と改元されたことをきっかけに、「平成」と改元された当時のことを思い出そうとしましたが、何分にも三十年以上も前のことで、さほど細かな事までは思い出すことはできませんでしたが、これを機会にと、「平成」時代の社会的な問題について諸々思い起こせば、阪神・淡路大震災や東日本大震災等の大災害、SARSのアウトブレイク、バブル景気の崩壊、リーマンショック等々の様々な危機から、インターネット、スマートフォン、AI等々の技術革新まで、インパクトのある出来事が数多くありました。

転じて、令和2年の今を見れば、新型コロナウイルスのアウトブレイク、これに起因する景気の悪化といった大きな危機に直面したところです。国を挙げて取り組んできた東京オリンピックも延期となりました。この危機の影響は、私たちが関わる知的財産の世界も無縁ではられないでしょうし、もとより、皆様

の日々の生活にも大きく及んできています。

様々な行動が制限されつつある状況の中で改めて強く感じることは、当たり前と感じていた自由で便利な生活が、いかに貴重なものであり、いかに脆いものであるのかということ。このような状況の中でも前へ進むためには、今一度、自らの足下を注意深く見る必要があるのかもしれない。

さて、特技懇について思いますと、皆様ご存じのように、それぞれ「昭和」の時代、しかも、その初期からの長きにわたり活動を続けている歴史ある会ですから、その地盤堅く、微塵のぐらつきもないもののように思います。しかし、「昭和」「平成」「令和」と時代が変わり、社会が大きく変わるなかで、時として堅くあるものを動かす必要があるかもしれません。会員の皆様にも、色々ご意見があることと存じます。その伝統や昨今の状況ゆえに、簡単に動かすことができないこともあるかもしれませんが、足下を見つつ、皆様と一緒に「令和」時代の特技懇について考えていければと思います。

貴重なお時間を頂戴し、拙文ご一読いただいたことに感謝致します。ありがとうございました。